

◀インタビュー▶

NGNを中心に、ネットワークに関する様々な技術的課題を機動的かつ効率的に解決

NTTグループが、NGNフィールドトライアルを一般モニタに拡大した4月1日、NTTアドバンステクノロジー（NTT-AT）は、レガシーからIPまでのアーキテクチャ、トラヒック、品質、信頼性、標準化に関わる社内のネットワーク系技術者を集約した「ネットワークテクノロジーセンタ」を新設した。他社にはないネットワーク系技術のスペシャリスト集団を率いる橋田幸雄常務取締役、設立の経緯から今後のビジョンについてうかがった。

ネットワークの専門技術集団「ネットワークテクノロジーセンタ」

■■■貴社では本年4月、社内のネットワーク系技術者を集約した新組織「ネットワークテクノロジーセンタ」を新設されました。新組織設立の経緯、狙いからお聞かせください。

橋田 現在、通信分野の世界的動向として、光ブロードバンドを活用したサービス提供の動きと、それに伴う標準化をはじめとするITU-Tや3GPP、IETF、次世代ネットワークフォーラム等の各種団体の活動が活発化してきています。NTTグループにおきましても、ご存知のように「中期経営戦略」に基づきNGNの開発・構築と実用化に向けた動きが加速しています。4月からはフィールドトライアルが、一般モニタにまで拡大されましたが、商用化に向けNGNの運営・構築技術の確立、技術者の養成などの課題が数多く残されています。

こうした中、NTT-ATにはレガシー

からIPまでのネットワーク（NW）のアーキテクチャ、トラヒック、品質・信頼性技術者、プロトコル標準化の経験者など、他社にはないNW系人材を多数擁しており、各事業本部でNTT研究所やNTTグループ各社の業務支援に加え、標準化や公的機関の先駆的な研究活動、各種団体の活動に貢献してきました。各事業本部に分散していた専門技術者を集約し、NWに関する様々な技術的課題を機動的かつ効率的に解決できる知恵袋として、一元的かつ明示的組織である「ネットワークテクノロジーセンタ」（TEC）を設立しました。これによってNWビジネスの拡大と、NTT-ATのコアコンピタンスとして、NW系の高スキル技術者の育成を図る（NTTグループのNW系技術の蓄積）のが狙いです。

効率的かつ機動的に動ける独自の体制を確立

■■■各事業本部が対応していたNWに関する様々な技術的支援を、一元的にワンストップで対応できる体制を確立し



NTTアドバンステクノロジー株式会社
常務取締役
ネットワークテクノロジーセンタ 所長
橋田 幸雄 氏

ようということだと思いますが、設立時の体制をお聞かせください。

橋田 NTT-ATでは事業本部ごとのユニット制をとっていますが、TECでは旧組織間を融合させ、相乗効果を発揮し、収益を確保するため、メンバーが効率的かつ機動的に動けるような体制を組む必要がありました。そのため、事業本部に準ずる組織でありながら、敢えてユニット制をとらずに、内部組織を大きく事業グループと技術グループの2つに分けました。総勢80数名からなっており、営業フロント機能を単一の事業グループ（20名弱）に結集して一本化し、またNW、相互接続、プロトコル、トラヒック分析、NW品質・信頼性、メディア品質、標準化など、技術面の検討支援と技術者育成を行う13の

専門家ごとの技術グループ（60数名）で構成しています。

そして、案件ごとに、アドホックに両グループから必要なスキルを持つ最適な人材を選定してプロジェクトチームを立ち上げ、各グループをまたがってビジネスを推進する体制にしました。さらに、他本部との役割分担を明確化し、連携を密にしてNWビジネスの拡大を図っていききたいと考えています。そのため、他本部との人材交流を活発化し、商品化を意識したプロトタイプ試作も手掛けます。

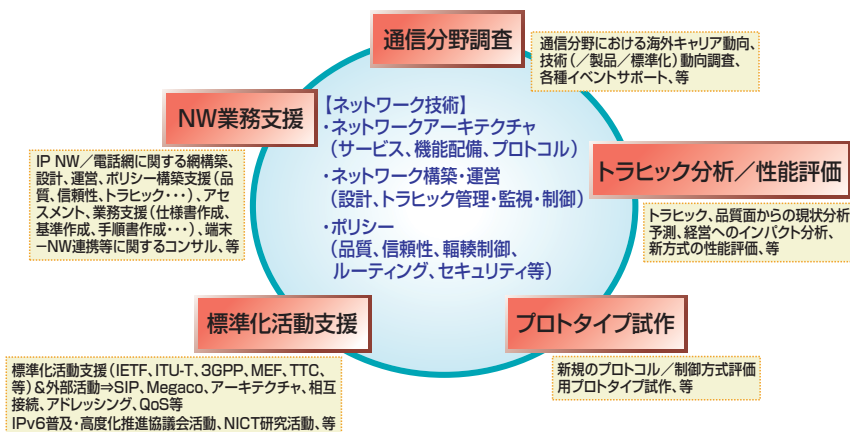
■■■事業ドメインについて、「次世代ネットワーク推進本部」との主な違いをお聞かせください。

橋田 次世代ネットワーク推進本部（次ネ本）との違いは、次ネ本はNGNの構築・運営を支援する実行部隊であり、TECはそのバックエンドで設計、トラヒック制御、品質評価をはじめとするNWの根本に関わる技術的な支援を専門的に行う組織とご理解ください。

お客様が抱えるNWの様々な課題解決を強力にサポート

■■■具体的な取組みについては後続の頁でご紹介しますが、TECの主要ミッションについてお聞かせください。

橋田 私どもは、NWコンサルや業務支援、トラヒック分析／性能評価など、お客様が抱えているNW系の課題を把握し、適切な解決策を提案し、それを具体化するための技術的な支援を行うことに加え、NWを取巻く環境分析（海外キャリア、標



ネットワークテクノロジーセンタの主要ミッション

準化、製品等の動向調査）や標準化支援などに応じていきます。また、前述したように、新規のプロトコル／制御方式評価用に、商品化を指向したプロトタイプ試作も行います。そのためのNW技術の基盤として、アーキテクチャ技術（サービス、機能配備、プロトコル、アドレッシング、相互接続）、トラヒック／品質技術（設計、管理、監視・制御、輻輳制御）、信頼性技術、セキュリティ技術の強化に取り組んでいます。

特に、NGNはトラヒック、品質面からの分析、需要推定・需要分析、メディア品質の測定・評価、さらにNWのトラヒック制御をサポートするTCS（Traffic Control System）などが極めて重要であり、TECの高スキル技術者への期待は非常に大きいと捉えています。

■■■ターゲット顧客は、NTT研究所とNTTグループですか。

橋田 NTT研究所とNTTグループ会社ですが、情報通信研究機構（NICT）や国立情報学研究所（NII）など国の機関や、各種団体

も大切なお客様と考えています。

3年後、売上高約27億円が目標

■■■最後に、売上目標を含め今後の抱負をお聞かせください。

橋田 TECは、ユニット制を採用していないものの、プロフィットセンタであり、利益を確保していかなければなりません。幸い、TEC発足の挨拶でNTT持株会社や事業会社を回りましたが、一様にTECにかなり期待してくださっている感触を得ることができました。初年度は、組織の基礎固めを行い、体制的に当初目指したように機能することに注力していきます。もちろん、技術グループ内での技術情報の共有、他本部との連携強化、お客様との相互の信頼関係の醸成を図ります。この体制を上手く運営することで、初年度売上高約19億円、3年後の平成22年には売上高約27億円、利益5億円強を目指しています。

■■■本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）